

主題：イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 13

わたしたちがキリストとの愛の交わりを持つために、
雅歌の内在的な意義にしたがってキリストを享受することによって、
キリストのからだの実際の中で生き、
自分自身をキリストの花嫁として準備する

聖書：雅 1:2-4, 2:8-9, 3:8-10, 4:12-16, 6:10, 13, 7:11, 8:13-14.
啓 19:7-9, マタイ 25:6-13

- I. 詩である雅歌の主題は、すばらしい結婚における愛の歴史が、個別の信者とキリストとの愛の交わりにおける進展する経験を啓示しています。それは、六つの主要な段階において彼の花嫁の用意を整えるためです——啓 19:7-9, マタイ 25:6-13, 啓 3:18-22, ゼカリヤ 4:1-6, 11-14, I ヨハネ 4:19, 詩 110:3, 119:140, 使徒 20:31-32, 35 :
- A. 雅歌の第一段階において、キリストの愛する者は引き寄せられ、彼を追い求め、満足を得ます (雅 1:2-2:7)。主は、彼を追い求める者が彼との個人的で、愛情に満ちていて、秘かで、霊的な関係を持つことを願っています：
1. 「わたしを引き寄せてください」は個人的です (雅 1:4)。主は「わたしは人の綱、愛のきずなで彼らを引いた」と言われました (ホセア 11:4 前半)。これが示していることは、神が彼の神聖な愛をもって、神性の水準においてではなく、人性の水準においてわたしたちを愛されるということです。神がわたしたちを引く人の綱は、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を含みます。人性におけるキリストのこれらすべての段階によって、神の救いにおける神の愛が個人的な方法でわたしたちに臨みます (ローマ 5:8, I ヨハネ 4:9-10)。
 2. 「わたしに口づけしてください」 (雅 1:2) は愛情に満ちています。わたしたちはキリストを信じて神聖な命としての彼を受け入れた後 (ヨハネ 1:4, 12)、個人的で愛情に満ちた方法でキリストを愛する必要があります。そうして、わたしたちは彼を追い求め、彼をわたしたちの満足として享受します。詩篇第 2 篇 12 節は、「御子に口づけせよ」とわたしたちに命じています。キリストに口づけすることは、キリストを享受することです。
 3. 追い求める者は、キリストを追い求めるとき、彼によって至聖所としての彼女の再生された霊 (彼の奥の間——雅 1:4) の中へともたらされ、彼と交わります。彼の奥の間は、主との秘かな関係を示します。
 4. さらに、キリストは彼の奥の間としてのわたしたちの再生された霊の中でわたしたちに訪れるので、わたしたちと彼との関係は、霊的でなければなりません。彼はわたしたちの霊の中で秘かにわたしたちに訪れて、物質的な方法ではなく、霊的な方法でわたしたちに来られます。
 5. すべての霊的な原則は、この第一段階 (雅歌における追い求める者の勝利の生活)

に含まれています。この学課に続く学課は、新しいものではなく、さらに深い方法で繰り返される古い学課です。再生は、神の遺伝子をわたしたちの中へともたらし、わたしたちのクリスチャン生活全体の経験すべては、この遺伝子の中にあります——Ⅰヨハネ 3:9。

B. 雅歌の第二段階において、キリストの愛する者は、召されて、キリストの十字架との一を通して自己から解放されます——2:8—3:5:

1. 雅歌第2章8節から9節は、復活の活力について語っています。これらの節でキリストは、「山々を飛び越え、丘の上を飛び跳ね」る、もしかや若い雄鹿のようです。山や丘は困難や障害を指していますが、復活したキリストをとどめることのできる高く偉大なものは何もありません。わたしたちは、山々を飛び越え、丘を飛び跳ねるキリストの臨在を追い求め、知る必要があります。
2. キリストの愛する者は、内省の中に落ち込み、その内省は隔離する壁となって、彼女をキリストの臨在から引き離します(9節後半)。ですから、キリストは彼女を励まして起き上がらせ、彼女の低い状態から出て来て、彼と共にいるようにします(10節)。
3. キリストの愛する者はまた、休眠(冬)の時が過ぎ、試練(雨)が終わり過ぎ去ったと、主が彼女に告げているのを聞きます(11節)。彼は彼女に、春の時が来たとも告げました。こういうわけで、彼女は、復活の繁茂する豊富を伴った主によって求められ、励まされます(12-13節)。
4. わたしたち、キリストの愛する者は、自分の天然の命によってではなく、復活の力によって、彼の十字架と一になり、彼の死に同形化されることが出来ます(14-15節)。復活の実際は霊なるキリストであり、究極的に完成された霊として、わたしたちの再生された霊に内住し、わたしたちの霊とミングリングされています。わたしたちはそのようなミングリングされた霊の中で、キリストの復活にあずかり経験し、これはわたしたちが十字架と一になり、自己から救い出され、造り変えられて神の新創造にある新しい人になり、キリストの有機的なからだを建造することで、神のエコノミーを完成します(ローマ 8:2, 4, 29. ガラテヤ 6:15. II コリント 5:17)。

C. 雅歌の第三段階において、キリストの愛する者は、召されて、復活における新創造として、昇天の中で生きます——雅 3:6—5:1。

1. 昇天の中に生きるとは、絶えずわたしたちの霊の中に生きることです。わたしたちは霊の中に住むとき、天の昇天したキリストに結び付けられます——エペソ 2:22. 創 28:12-17. ヨハネ 1:51. 啓 4:1-2. ヘブル 4:12, 16 節とフットノート 1。
2. 「ソロモン王は、レバノンの木で自分のために輿を造った。その支柱は銀、基は金、その座席は紫色の布で造った。その中に、『エルサレムの娘たちから愛を込めて』と縫い取りされていた」——雅 3:9-10:
 - a. わたしたちの中の造り変える霊の働きによって、わたしたちは、キリストの行動する器、すなわち、キリストの輿、キリストの「車」となります。それはキリストの行動のためであり、キリストの行動はキリストのからだの中にあり、

またキリストのからだのためです——参照、Ⅱコリント 2:12-17。

- b. わたしたちは、神聖な三一をもって再建されます。それによって、わたしたちの外側の構造は、復活し昇天したイエスの人性となり、わたしたちの内側の飾りは、主に対するわたしたちの愛となります——雅 3:9-10。
 - c. わたしたちの内なる存在は、「愛で縫い取られる」（10 節）べきです。主を愛することは、キリストをわたしたちの人性とする領域の中にわたしたちを保ち、彼の愛情が押し迫る中でわたしたちの人性を保護します（Ⅱコリント 5:14）。
 - d. わたしたちが個人的な、愛情に満ちた、ひそかな、霊的な方法で主を愛することを通して、わたしたちの天然の存在は取り壊されます。またわたしたちは、キリストの贖いの死（銀で造られた支柱）、神の神聖な性質（基）、わたしたちの内側で支配する命を与える霊としてのキリストの王職（紫色の布の座席）をもって、改修されます——雅 3:10. 参照、ローマ 8:28-29. Ⅱコリント 4:16-18。
3. キリストの昇天における彼女の生活を通して、復活における新創造として、キリストの愛する者は、キリストの命の豊富において円熟しています。そうして、彼女はキリストの秘かな享受のための、キリストに対する園となることができます（雅 4:12-15）。彼女は、どのような状況や環境においても、キリストの香りを放つために準備されています。彼女は、困難な環境（北風）と喜ばしい環境（南風）が園としての彼女に働いて、その香りが発散することを願います（16 節）。
- D. 雅歌の第四段階において、キリストの愛する者は、さらに強く召されて、復活の後の十字架を通して幕の内側で生きます——雅 5:2—6:13：
- 1. 幕の内側で生活することによって、キリストの愛する者は、造り変えられて天の光体となります。彼女は夜明けの光のように見え、月のように美しく、太陽のように明るい——雅 6:10：
 - a. 勝利者の路は夜明けの光のようであり、いよいよ輝きを増して真昼となります——箴 4:18. ヨハネ 1:5。
 - b. 夜明けの光、すなわち日の出は、キリストの来臨と、わたしたちが毎朝復興されることを表徴します。クリスチャン生活は、太陽の出現のようなものです——ルカ 1:78. 箴 4:18. 詩 110:3. 士 5:31。
 - 2. キリストの命の円熟において、キリストの愛する者はシュラムの女となります（「ソロモン」の女性形）これは、彼女が命、性質、表現、機能において（神格においてではない）キリストであるのと同じになり、キリストの再生産とキリストの複製とになり、彼に符合して彼と結婚することを表徴します——雅 6:13. Ⅱコリント 3:18。
 - 3. シュラムの女は、神の目に、踊っている二つの陣営、あるいは二つの軍隊にたとえられます（ヘブル語は、「マハナイム」）。ヤコブは神の御使いたち、神の二つの軍隊と会った後、彼がいた場所をマハナイムと名付け、自分の妻たち、子供たち、所有を「二つの軍隊」に分けました——雅 6:13. 創 32:1-2：
 - a. 二つの軍隊の霊的意義は、わたしたちが勝ち得て余りがある強い証しです。わたしたちは、キリストのからだの原則にしたがって、わたしたちを愛してくだ

さった彼を通して、「超勝利です」——ローマ 8:37. 12:5。

- b. 神は、自分自身の中で強い人を求めているのではありません。彼が求めているのは、弱々しい人、より弱い人、女や子供たちだけです。勝利者となるのにふさわしいと数えられる人たちは、主に頼る、より弱い人たちです——Ⅰコリント 1:26-28. Ⅱコリント 1:8-9. 12:9-10. 13:3-5。

E. 雅歌の第五段階において、キリストの愛する者は、主の働きにあずかります——雅 7:1-13 :

1. 4 節でその霊が愛し追い求める者の美しさを述懐しているのは、その霊の造り変える働きによって、苦難を通して造り込まれた服従する意志（首）においてであり、それは神のみこころを完成するためです。また彼女の心の表現においてであり、それは光に対して開かれ、清く、安息に満ち、近づけるものです（池のような目——参照、1:15. 4:1. 5:12）。また彼女の高く鋭敏な識別力の霊的な感覚においてです（鼻——参照、ピリピ 1:9-10. ヘブル 5:14）。
2. 雅第 7 章 11 節が示しているのは以下のことです。キリストの愛する者は、一つの場所から他の場所に寄留して（村里に宿る）、彼女の愛する方と共に全世界（野）のための働きを完成することを願います。これは、彼女が主の働きを完成することで、分派的でないことを示します。しかし、彼女は働きを開放し、他の人がそこに来て寄留することができ、彼女が他の所に行って寄留することができるようにします。これは一つからだにおける一つの働きを保つことです。
3. 主の働きにあずかることは、主と共に働くことです（Ⅱコリント 6:1 前半）。わたしたちは主と共に働くために、命における円熟を必要とし、主と一になる必要があります、わたしたちの働きは彼のからだのためでなければなりません（コロサイ 1:28-29. Ⅰコリント 12:12-27）。
4. シュラムの女はソロモンの配偶者として働き、すべてのぶどう園（雅 8:11）、すなわち、全地の諸召会と信者たちを顧みます。わたしたちは全世界のためである働きを持たなければなりません。これがパウロの行なったことであり、彼は諸地方召会を設立し、さらに働いて、諸地方召会をキリストのからだの完全な実現の中へともらしました——ローマ 16:1-24。
5. 雅歌第 7 章 12 節は言います、「わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう。そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」。この時、彼女は、主の働きを主ご自身と結び付けることができるようになっていきます。今や彼女は、彼の働きで、主に対する彼女の愛を表現することができます。

F. 雅歌の第六段階において、キリストの愛する者は、携え上げられることを望みます（雅 8:1-14）。彼女は、愛する方に寄りかかって荒野（地的な領域）から上って来ています（5 節） :

1. 「愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、ヤコブと同じように、彼女の腰のくぼみが触れられて、彼女の天然の力が主によって対処されたということです——創 32:24-25。
2. 「愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、また、彼女が自分がひどく

圧迫されているのを見いだしているようであり、これが荒野の行程が終わるまで続くようであるということです——Ⅱコリント 1:8-9. 12:9-10. 13:3-4。

3. 彼女の愛する方が彼女を彼の愛の心に印のようにし、また彼女を彼の力である腕に印のようにしてくださることを、彼女は彼に求めました。この時点で、彼女は自分の無力さと望みのなさを自覚しています。彼女は、すべてのことが神の愛と神の保護する力にかかっていることを認識しています——雅 8:6-7。
4. キリストの愛する者は、彼の園としての信者たちの中に住む方に、彼の声を聞かせてくださるようにと求めます——13 節. 参照、4:13—5:1. 6:2 :
 - a. これが示しているのは、わたしたちが、愛する方としての主のために行なう働きにおいて、彼との交わりを維持し、常に彼に聞き従う必要があるということです——ルカ 10:38-42。
 - b. わたしたちの生活は主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは主の命令にかかっています。わたしたちの祈りの中心点は、わたしたちが主の語りかけを切望することであるべきです——啓 2:7. サムエル上 3:9-10. 参照、イザヤ 50:4-5. 出 21:6。
 - c. 主の言葉がなければ、何の啓示も、光も、神の奥義としてのキリストに関する、またキリストの奥義としての召会に関する主観的な知識もありません（コロサイ 2:2. エペソ 3:4-5. 5:32）。信者たちの一生は、すべて主の語りかけにかかっています（26-27 節）。

Ⅱ. この詩の書の結びの言葉として、キリストの愛する者は、彼女の愛する方が彼の復活の力（かもしかと若い雄鹿）の中で急いで戻って来て、全地を満たす彼の甘く美しい王国（香料の山々）を設立してくださるようにと祈ります——雅 8:14. 啓 11:15. ダニエル 2:35 :

- A. そのような祈りは、花婿としてのキリストと花嫁としての彼の愛する者たちとの、新婚の愛における結合と交わりを描写しています。これはキリストの愛する者であるヨハネの祈り（聖書の結びの言葉として）のようであり、それは神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています——啓 22:10。
- B. 「主イエスよ、来たりませ！」は、聖書における最後の祈りです（啓 22:20）。全聖書は、主の再来を切に待ち望む祈りの言葉で結んでいます。
- C. 主が来られる時、信仰は事実となり、賛美が祈りに置き換わります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。それは何という甘い日でしょう！ 主イエスよ、早く来てください！（ウオッチマン・ニー全集、第 23 巻、「歌の中の歌」、177-178 ページ）